

平成 19 年 2 月 14 日

北関東会場

於：シムックス

中齋塾準備フォーラム 第 7 回講話

おはようございます。

回を重ねていくごとに、お話しをさせて戴くスタイルが固まってまいりました。

まず、素読の実体験。

次に、陽明学の中の一つを選んで実例を出してお話しをする。

それから最近の時事問題についてお話しする。

その結果として、〈本質・大局・歴史〉という判断の三原則を我がものとして戴きたい。

何か困りごとが起きた時、判断の三原則で考えると、非常に役に立つ事が多いと存じます。

それを踏まえて、中齋塾では何を行動していくか。

非常に単純な事です。

今朝起きてから、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか？

昨日一日嘘をつかなかった方はいらっしゃいますか？

では今月、嘘をつかなかったと胸を張って言える方はどうですか？

なるべく嘘をつかない生活をしましょう。

それから生活習慣も、少し見直ししてみたら如何でしょうか。

私は具体的に今、6：6：12 というやり方をしています。

食事を朝 6 時に致します。

6 時間後の 12 時に昼ご飯を食べ、夕飯は 6 時間後の午後 6 時です。

それから 12 時間経って、朝御飯です。

間に何か若干の間食をしますが、ポイントは 6 時に食べる予定が仮に 7 時になってしまっ
たら、食べる量を減らす事です。

寝る時は本当にお腹が空っぽです。

ここへ辿り着くまでに結構時間がかかりましたが、生活習慣として定着しています。

素読についてお話しします。

素読は江戸時代後半から明治・大正・昭和の前半は、素読をする事によって人物を作って

きました。

素読によって、人は鍛えられています。

安岡正篤記念館で今、荒井桂先生が子供さんに論語の素読をしています。

英才教育です。

小さい時に、訳も分からずにただ素読を教えられる。

意味は分からなくても良いのです。

何度も繰り返しているうちに、自然と身に沁み込んできます。

素読は明治・大正・昭和前半の、英才教育の基本中の基本でした。

これは論語に限りません。

素読を又、日本の国の中で復活させようという動きが各地で起きていますが、非常に良い事だと思っています。

私は今、銀座で論語の素読の指導をしています。

早朝ですが結構遠くから車で駆けつけて下さる経営者の方もいます。

論語の素読をしていると、自分が困った時にふっと詞が浮かんで来ます。

詞が浮かぶと、自然と行動に移ります。

詞を身に染み込ませておく事が必要です。

素読を3年続ければ、ものになります。

素読を一所懸命やって、どのように自分は進んだかというのを見直しすると良いでしょう。

素読を始めて、まず入門は資料を見ながら読みます。

これが初級になると、自分の気に入った詞が出ます。

中級になると、イメージが浮かびます。

上級になると、自分が困った時に、その場面に当てはまるような良い詞が浮かびます。

そしてその問題に対処する知恵が素読の中から出た、と実感できます。

色々な家庭の中の問題、会社の経営の問題に対して、自分が困った時に役に立つヒントが出て来ると、合格です。

素読をする事によって、身体の中に染み込んで来ます。

知識だけでは使えません。

次に陽明学の一言に参ります。

本日は「事上磨練」がテーマです。

陽明学は王陽明が打ち立てた学問です。

もともとこれは、論語をどう解釈するかというところで進んでいると思って下さい。

孔子の言行録をまとめたものが論語です。

孔子が亡くなって暫く経ってから、孔子の教えをこう理解すれば良いと言って朱子という人が朱子学を打ち立てました。

朱子学も時間が経って時代が変わると、だんだん弊害が生じてくる。

これはおかしいという事で、王陽明が出て陽明学を打ち立てました。

陽明学が日本に伝わって、中江藤樹という方がそれを取り入れました。

それが佐藤一斎につながっていくわけです。

我々はその学縁につながっています。

陽明学は行動を重視します。

「私は何も知らない・・・」という人がいますけれど、そう言える人はすごいと思います。

一知半解という言葉があります。

「知っていますよ」といっても、意外と表面的なものしか知らない場合があります。

ですから「知っているよ・・・」という時には、どんどん深く深く掘り下げていく。

その時に頭の中だけで判断するのではなく、行動する。

体験することが必要です。

「事上磨練」は、仕事の中から自分を磨くものを見出して我がものとする、その繰り返しです。

どこかの大学に出かけて行って、話を聞き何かを覚えて知識を増やす。

そうすると「学問をしたな」と思います。

これはこれで悪くはありませんが、本物の学問に突き当たるには、ちょっと苦しいと思います。

やはり体験しなければいけません。

学問は体系化された常識です。

又、日常生活に役に立たない学問は、似非学問です。

ですから我々が今ここで学ばせて戴いているものは、実際に役に立たなければ話にならないと思っています。

では、具体的にどう役に立たせるか。

先ほど申しました、<嘘をつかない> <約束を守る>・・・すごく単純な言葉ですが、一日嘘をつかないでいる事が出来るか、約束を守り通す事が出来るか。

これは大変な事だと思います。

それから自分自身で決めた生活習慣の決まりです。

陽明学の「事上磨練」は、日々の仕事の中から、自分を磨くものを見い出して、ぐんぐん伸びていくこと。

そしてあとで気が付くと、学問の道に合致しているという体験・体感が出来ていくのです。

「事上磨練」とは、自分が疑問に思ったことを行動して調べる。

そして確認をし、又行動する。

その繰り返しです。

その一つの例として、私の行動をご紹介します。

最近銀行でお金が下しにくくなったと思いませんか。

本人確認をしなければいけない。

テロ対策だと言っていますが、それだけでしょうか？

疑問に思ったら行動に移って、疑問を解く動きが必要です。

私は過去の日本に、銀行が問題になったことはなかったか調べました。

国会図書館に出かけて行って、手ごたえがあったのは、昭和 21 年 2 月 17 日付けの新聞です。

60 年前の日本、銀行はとんでもない状況になっていました。

金融緊急措置令が出ていました。

銀行に行ってもお金は下せません。

筆筒預金している人は、お金は紙くずにしますから銀行に預けて下さい。

今迄持っていたお金は、もう使えません。

・・・という宣言です。

他にも食糧緊急措置令が出て、食べ物が食べられなくなりました。

それから教科書も墨を塗って、日本人を骨抜きにしようというGHQの意向で、日本人に歴史を教えるはいけないという政策が出ました。

ですから昭和 21 年は、日本の今のごく常識だと思われる事が、どんどん進められた頃です。

日本国中丸裸という大変な時代が、60 年前にあったのです。

銀行がお金を外に出さなくなる時、払い出しをしなくなる時、60 年前は新札を発行して新しいお金だけを流通するようにさせていました。

私は疑問に思ったので、すぐに国会図書館に行って調べました。

歴史を調べて分かりましたから、他の国はどうか・・・。

そういう状況になった国に、昨年行ってみました。

アルゼンチンは 5000%のインフレです。

ロシアは、ソ連からロシアになる時に米ドルで 1 億円預金した人が、ロシアになってほとぼりがさめた頃帰って来たら、1000 億円に化けていたという話を聞きました。

本当かと思って、昨年はロシア、アルゼンチン・ペルー・ブラジルの国家破綻をした国々を回って来ました。

そうしましたら、やはり「事上磨練」です。

行ってみると、なるほどなと思いました。

ロシアは沢山人が死んでいました。

食べ物がなくて、飢え死にです。

国家の体制が崩壊した時に、国民がもの凄い勢いで死ぬ国と、死なない国があります。

毛沢東の中国も何千万人単位で国民が死にました。

ロシアも然りです。

中南米は、アルゼンチンもペルーも死んでいません。

なぜなら食べものが豊富にあるからです。

これは凄まじい違いでした。

アルゼンチンは 5000%のインフレで、どうにもならなくなってデノミをし、デフォルトをしました。

国家が借金を踏み倒した時に、国民はお金を下せなくなりました。

アルゼンチンで私がお会いした人は、一日 100 ドルは下す事が出来たから、奥様と毎日 100 ドルずつ下したり、ありとあらゆる銀行へお金を振り分けて、それをご夫婦で毎日朝から晩まで A T Mを駆けずり回って下して歩き、3 ヶ月くらいかかって、何とか半分くらいは下せたそうです。

アルゼンチンでお目にかかった方々に聞くと、「今回は大丈夫でした。財産を巻き上げられても半分残っています。何とかあります・・・」という事でした。

ペルーも似たような話でした。

陽明学をしていくと、どうしても行動に移りたくなる意欲が湧きます。

自分がちょっと疑問に思ったものを、過去の歴史を調べる、そして他の国々も調べてみる。

自分の足で歩いて体験してくれば、“マスコミで言っているものと、実態は違うのではな
いか・・・”という眼が、自然と生まれてきます。

新聞で読んだりテレビで見たり、人さまの話を聞いたら、出来る限り行動し現地で確認するのが良いと考えます。

これが「事上磨練」です。

不二家の問題にしても、私の印象は、日本国中腐っているから、腐っているものが少し表面化しただけだと感じました。

一番腐っているのは、不二家の社長が引責辞任を発表した時に、何と遅い発言だろうと思いました。

失敗したと思ったら、後始末だとか言わずに、さっと辞めて後任に譲るべきです。

不二家に限らず、日本の国の中で起きる問題、外国で起きる問題を判断する時に、ご自分の直感を信じると良いでしょう。

皆さんも自分の人生の中で、判断基準をお持ちだろうと思います。

自分が直感で思ったものが、大体当らずといえども遠からずです。

この中斎塾で私がやりたいと思っているのは、出来るだけ嘘をつかないようにしましょう・約束を守りましょう・自分が良いと思う生活習慣を研究して、生活習慣を少し変えてみましょう、と申し上げます。

それが皆さん自身の行動・生活の中に影響をし、家庭、会社、団体といった組織に影響が出れば良いと思います。

ひいては 日本国の役に立つし、世界にもつながっていくと思います。

最終的にまとめると、< 足るを知る > ということです。

今日本のGDPは 500 兆、借金は 1000 兆です。

ただし、昨年までは 700 兆とか 800 兆とか言っていたのが、年が明けたら 1000 兆と言い出した。

隠れている金額は、その倍あると思います。

日本は 500 兆の稼ぎ高に対して 1000 兆の借金があるのに、どうして潰れないか。

先ほどのロシアもアルゼンチンも、稼ぎ高の半分の借金で踏み倒し、デフォルトをして国家破綻を迎えました。

日本が破綻しないはずがないと思います。

いまここで < 足るを知る > という考え方をどんどん世界に出していくのが日本人の役目ではないかと思っています。

「おかげさまで」「もったいない」という言葉を、我々の中でもっと大事にして、それを

中斎塾で発信していきたいと考えています。

そうすると3年後から5年後には、各自治体の判断基準、国家の判断基準なども中斎塾で出していきたいと思っています。

以前は売上げの高い会社、大きな会社が良いとされていましたが、会社の規模でなく質が問われる時代に、世界が変わって来ています。

地球環境に良い効果を及ぼす仕事をしている会社は良い会社、世の中の役に立つ会社は良い会社というわけです。

日本はそういう意味では一番良いものの考え方をしている国だと思っています。

それは中という思想があって、< 足るを知る > という考え方を活かしている国だからです。

そう考えると、中斎塾は相当必要なもので、時代の流れに沿った、時代の要請を受けて誕生したのだと感じています。

目の前の事としては、< 嘘はつかない > ・ < 約束を守る > ・ < 生活習慣を見直そう > というところからスタートしたいと考えています。

長時間にわたってお聞き下さいまして、有難うございました。

以上で終了させて戴きます。